

## 安全な登下校動線の確保

- ・児童は校内を東西につなぐ校舎前通路の東側・西側から、近隣住民は南側からと出入口を分け、明確なセキュリティラインで児童の安全を守ります。
- ・また歩道を拡張整備し、安全な登校動線を整備します。

## 広い校庭とプレイコートで健やかな成長

- ・既存サイズ以上のトラックが入る広さの校庭を整備します。遮熱型の人工芝又はゴムチップ舗装を選定し、近隣への飛砂対策を行います。
- ・屋外プールは可動幕等を設け日影をつくり、暑さ対策を行います。
- ・プレイコートを整備し、校庭の活動と遊具エリアを明確にゾーニングします。

## 近隣に配慮した校舎配置

南側：

- ・道路に面して屋外空間を整備し、道路境界からの離隔（約 10m）を確保します。

西側：

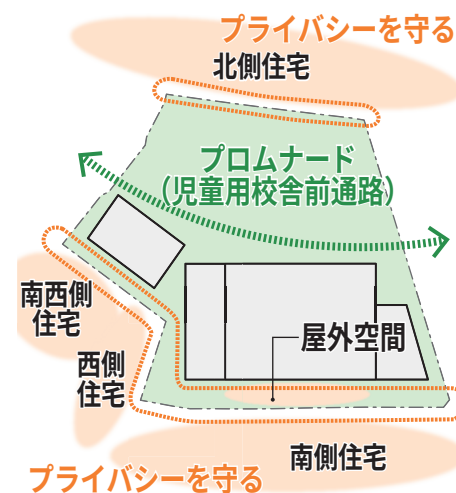
- ・敷地境界から離隔（約5m以上）を確保します。
- ・西側に開口部の少ない体育館を配置し、視線の見合いに配慮するとともに、屋根形状の工夫で日照確保と圧迫感軽減に努めます。

南西側：

- ・敷地境界から離隔（約5m）を確保します。
- ・隣地側にプールの附属棟を配置し、校庭及びプールでの活動音を軽減する計画とします。

北側：

- ・敷地境界に沿って防球ネットを設置するとともに下部 2m 程度には目隠しを設け、視線の見合いに配慮します。



## 建替えの流れ (今後の進捗によって変更の可能性があります)

| 令和7(2025)年度 | 令和8(2026)年度    | 令和9(2027)年度 | 令和10(2028)年度      | 令和11(2029)年度      | 令和12(2030)年度     | 令和13(2031)年度      | 令和14(2032)年度         |                       |
|-------------|----------------|-------------|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|----------------------|-----------------------|
|             | 設計・説明会等        |             |                   | 新校舎建設・既存校舎解体等     | ★新校舎 使用開始        |                   |                      |                       |
| 基本プラン<br>策定 | 基本設計<br>地域説明会等 | 実施設計        | STEP1<br>既存プール棟解体 | STEP2<br>新校舎棟1期建設 | STEP3<br>既存体育館解体 | STEP4<br>新校舎棟2期建設 | STEP5<br>既存校舎・既存学童解体 | STEP6<br>新プール棟建設・外構整備 |

## 02 | 学びと出会いを生む平面ゾーニング計画

### 学びと出会いを創出

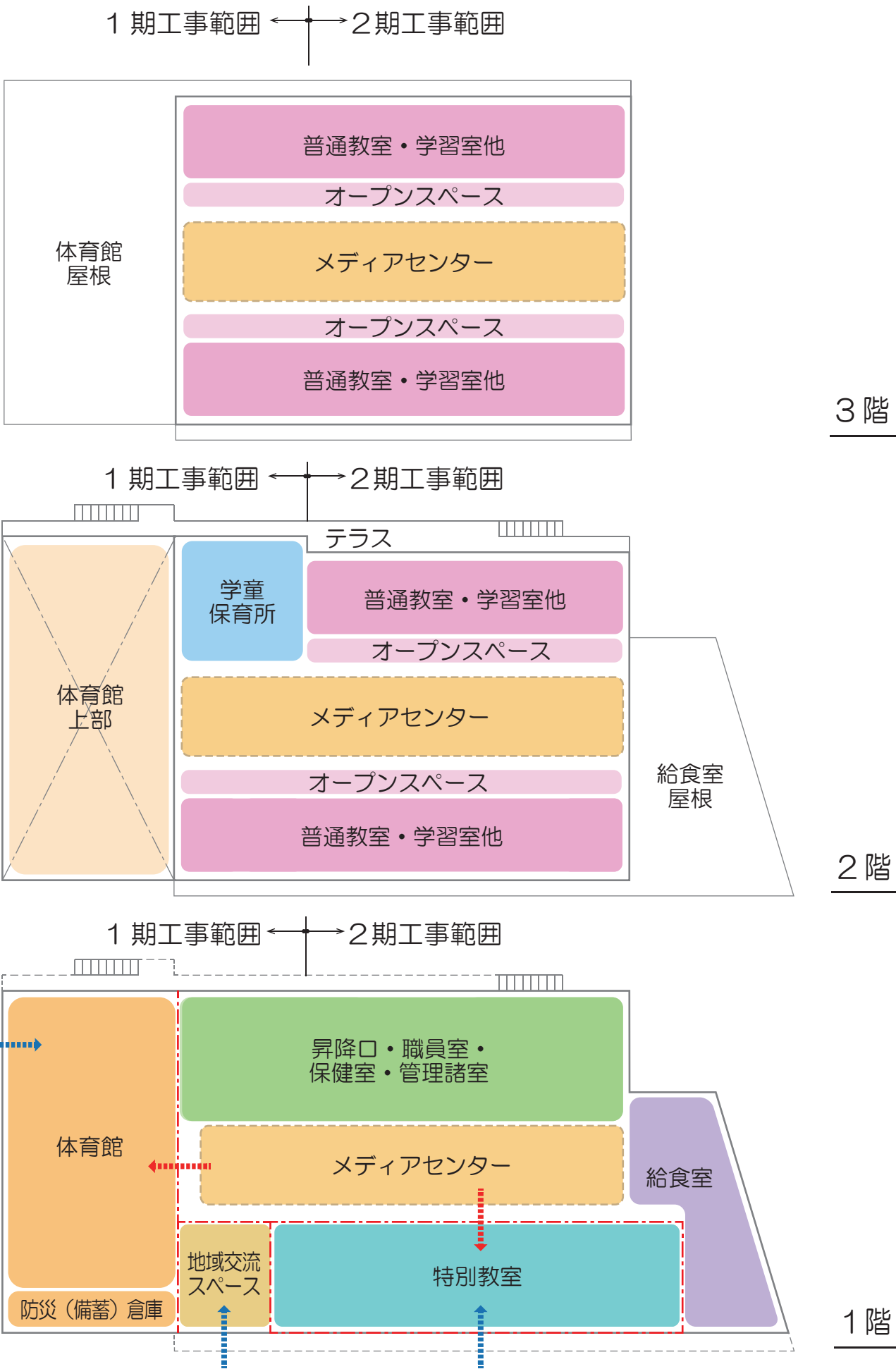
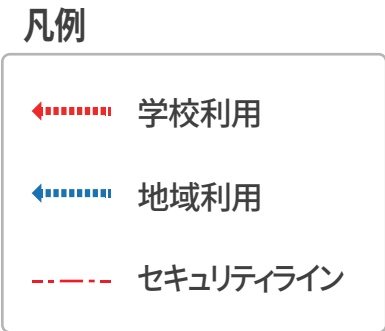
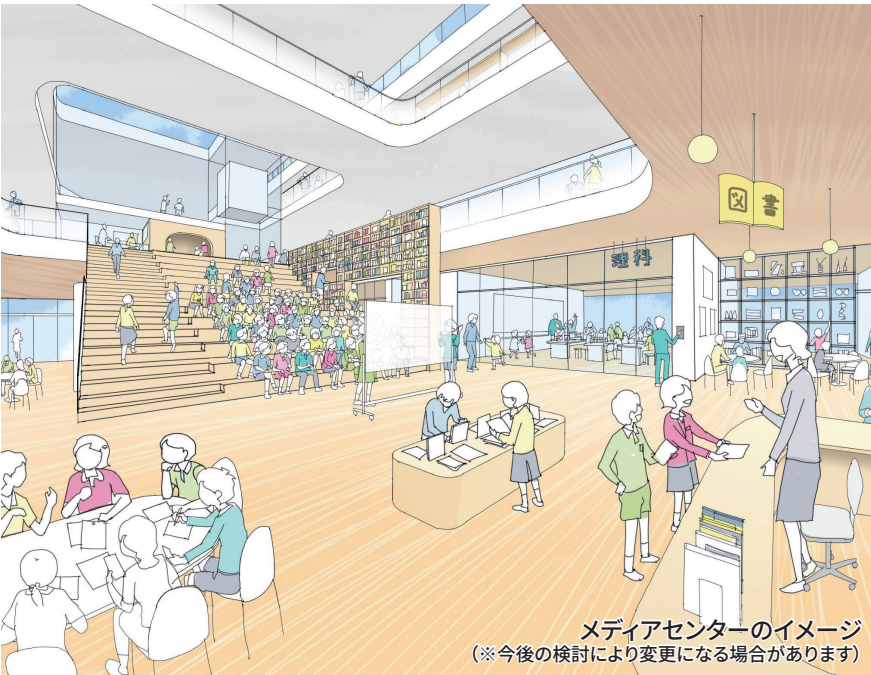
- 校舎の中心には本や様々な掲示・情報が集積する「メディアセンター(仮称)(学校図書館)」を配置します。「メディアセンター」に面して特別教室を配置し、教科を横断した学びの空間を整備することで、深い学びとの出会いが生まれます。
- 普通教室はオープンスペースとつながり広がる空間構成とし、個別最適な学びを実現します。

### 地域と学びがつながる学校3部制

- 1階南側、屋外空間に面して特別教室を集約し、外部側（地域利用）と校舎内部側（学校利用）にそれぞれ出入口を設けるとともに、施錠管理を含めた具体的なセキュリティ運営について検討し、学校利用と地域利用が共存できる環境とします。
- 1階屋外空間に面し地域交流スペースを設け、地域の方々が日常的に立ち寄れる居場所を作ります。

### 工期・コストを低減する構造形式

- 校舎の構造は鉄骨造（S 造）を検討しています。
- 一般的な校舎に多く採用される鉄筋コンクリート造（RC 造）と比べ、工場で制作した鉄骨を現場で組み立てる S 造の方が、工期を短縮することが可能です。
- また RC 造に比べ S 造の方が軽量のため、基礎にかかる工期・コストを抑えることができます。



03 | 子どもの安全や学校生活を第一に考えた建替計画

Point① 学校生活を維持する計画

- 仮設校舎を使用せず、新校舎が利用できるまで現在の校舎の環境を守ります。

Point② 工事中も常に避難所がある

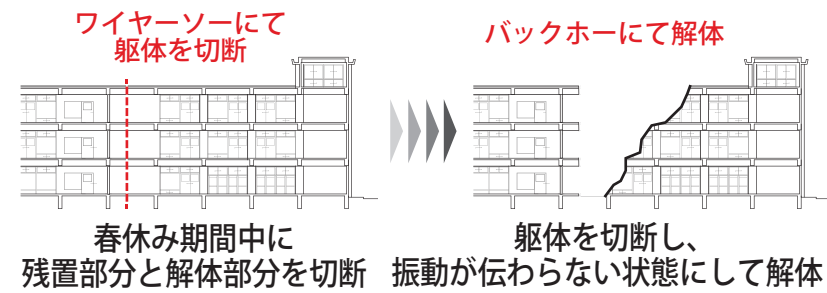
- 全工事期間中、常に体育館(運動環境・避難所)を維持する計画とします。また校庭へ避難しやすい動線を確保します。

Point③ 既存校舎の部分先行解体

- 1期工事完了後、既存校舎東棟の一部を先行して解体します。これにより新校舎を東側に拡げることで西側住宅地からの離隔が確保できます。また東西方向に広げた分、南北方向に狭くすることで、南側住宅地への圧迫感軽減及びグラウンド面積の確保、学習環境向上につなげます。

Point④ 学習環境に最大限配慮した工事計画

- 工事期間中の既存校舎での授業に対し、新築・解体工事の騒音・振動が極力及ばないよう、離隔の確保や工事手順の工夫、防音シート設置等の対策を行います。

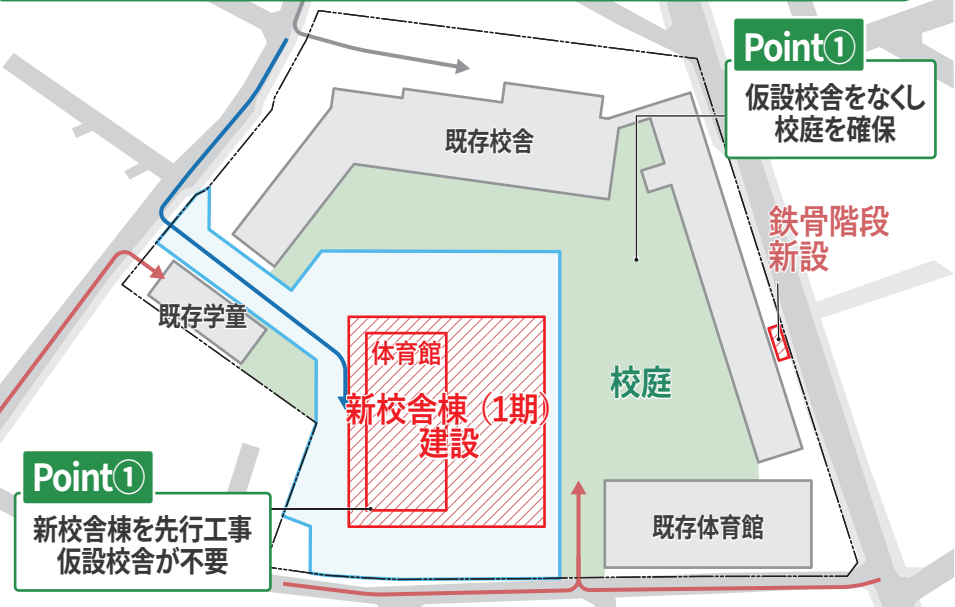


＜既存校舎東棟先行解体の手順＞

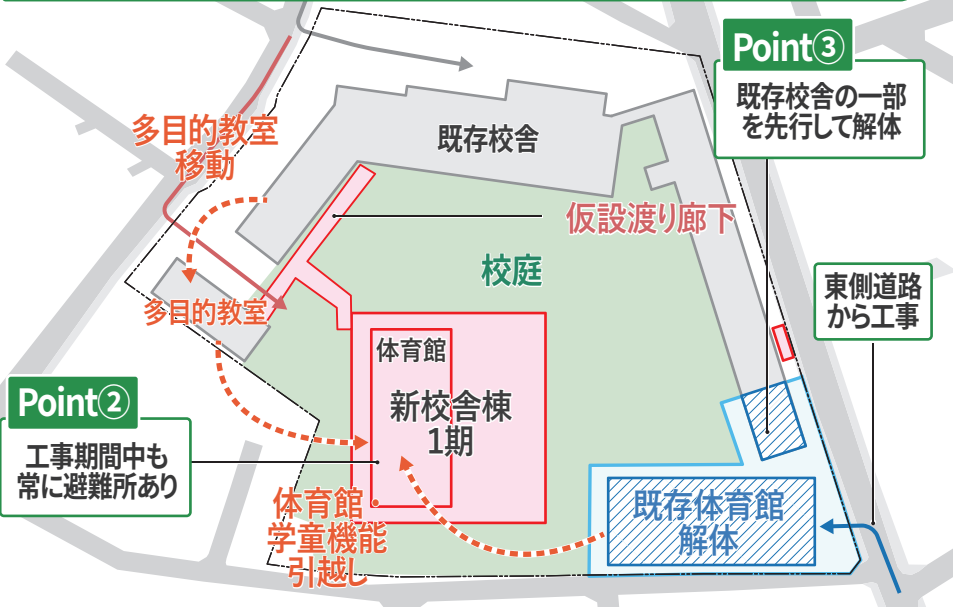
STEP1 | 既存プール棟解体 R9(2027).11 ~ R10(2028).01



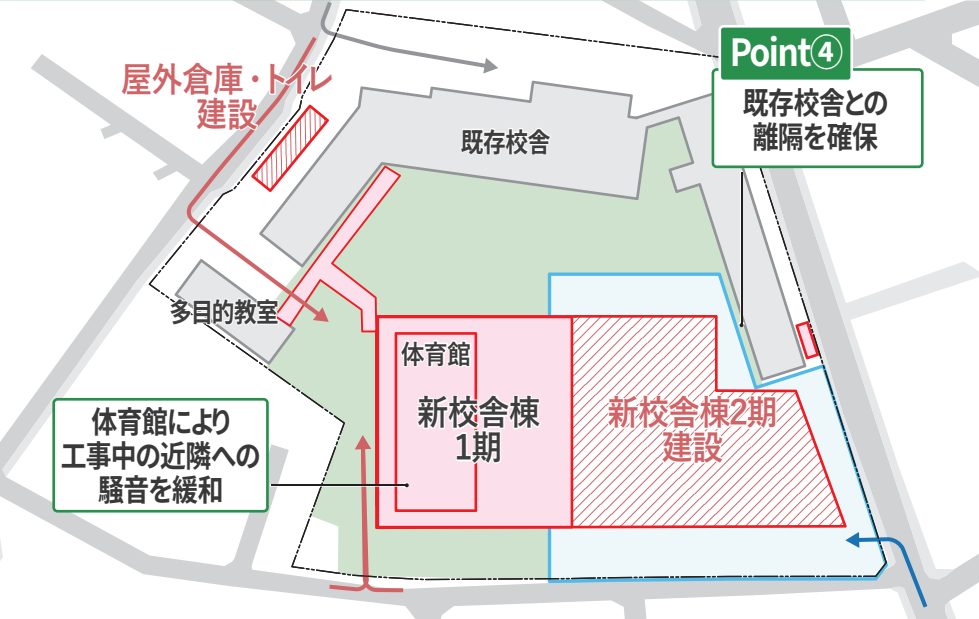
STEP2 | 新校舎棟1期(体育館+学童保育所)建設 R10(2028).02 ~ R11(2029).02



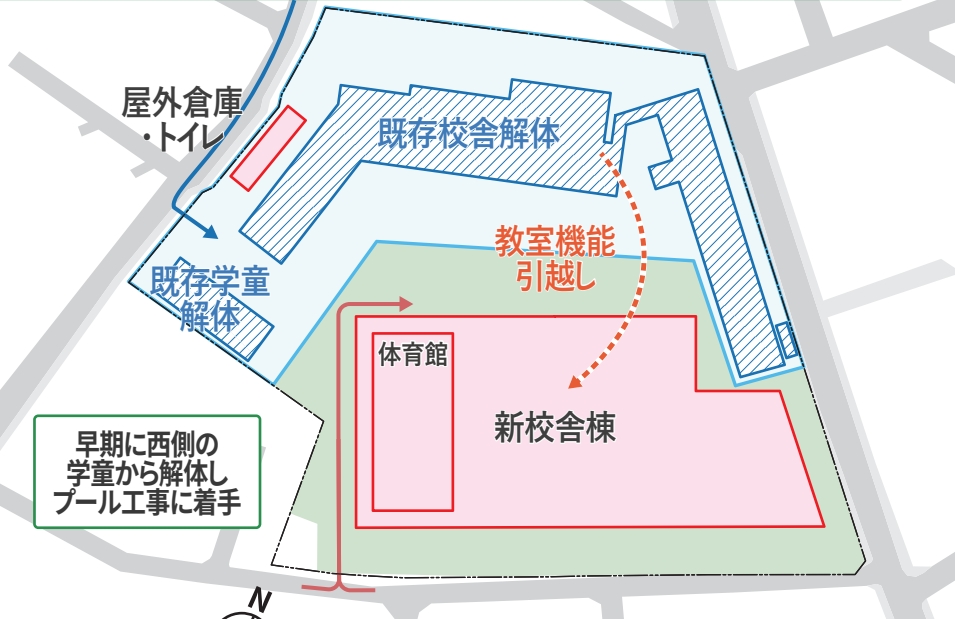
STEP3 | 既存体育館解体・東棟一部解体 R11(2029).03 ~ R11(2029).05



STEP4 | 新校舎棟2期(教室・給食室等)建設 R11(2029).06 ~ R12(2030).07



STEP5 | 既存校舎・既存学童解体 R12(2030).08 ~ R13(2031).10



STEP6 | 新プール棟建設・外構整備 R13(2031).11 ~ R14(2032).12



凡例

|    |    |    |      |    |       |      |
|----|----|----|------|----|-------|------|
| 既存 | 新築 | 竣工 | 通学動線 | 解体 | 工事ヤード | 工事動線 |
|----|----|----|------|----|-------|------|